

ご自宅のパソコンから席を選んで
チケットがcaえる!!
日本フィル・ウェブサイトへアクセスして下さい。
<http://www.japanphil.or.jp/>

月刊
かえる新聞

第31号 2005年7月1日
発行：日本フィル・サービスセンター
(愛称：かえるセンター)
〒166-0011 杉並区梅里1-6-1
TEL.03-5378-5911 FAX.03-5378-6161

最強最高の布陣で臨む マエストロ・コバケンが人生を掛けて取り組む ヴェルディの一大スペクタクル(レクイエム)

2005年春シーズンの最後を飾るのは、音楽監督コバケンさんが人生を掛けて取り組むレパートリーの一つ、ヴェルディの《レクイエム》。今最も輝いている内外のソリスト陣、昨年12月の《第九》での名演が記憶に新しい二つの合唱団を迎え、まさに最強最高の布陣でお贈りする渾身のプログラムです。

第572回東京定期演奏会

7月7日(木)、8日(金) 7:00PM
サントリーホール

指揮：小林研一郎〔日本フィル音楽監督〕
独唱：ヒブラ・ゲルズマーワ(ソプラノ)
ズラータ・プリチョーフ(アルト)
佐野成宏(テノール)
長谷川 顯(バス)
合唱：東京藝術大学声楽科学生〔有志〕
武蔵野合唱団



ヴェルディ / 《レクイエム》

第65回マエストロ・サロン

～小林研一郎スペシャル!～

コバケンさんが登場する今回はスペシャル編! 毎回自身のピアノや歌を交えながら音楽の話をたっぷり聴かせてくれるコバケンさん。乞うご期待!

6月28日(火) 7:00PM～(1時間半程度)

会場：東京国際フォーラム(有楽町)

参加費：1,000円(茶菓付き)

日本フィルの定期会員または第572回東京定期演奏会の1回券をご購入のお客様がご参加頂けます。

お申込みはサービスセンターへ



ヒブラ・ゲルズマーワ



ズラータ・プリチョーフ



佐野成宏



長谷川 顯

ヴェルディが偉大なる先人達に捧げた“祈りの歌”

イタリアの大作作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(1813～1901)は、19世紀最大のオペラ作曲家として広く知られています。87年という大芸術家としては珍しく長寿を全うした人生の中で、《椿姫》《アイダ》《運命の力》など、数々の傑作オペラを書き上げました。死者のためのミサ曲《レクイエム》は、そんなヴェルディが残した数少ない宗教音楽の一つ。イタリア・オペラの先駆者であったロッシーニの訃報を受けたヴェルディは、一周忌に捧げる音楽を自身を含め12人の作曲家で連作する計画を立てました。しかしこの計画は上演を前に頓挫、ヴェルディが作曲した最終楽章「リベラ・メ(我を許し給え)」の楽譜も、書斎でほこりをかぶる運命を辿ったのでした。ところがその4年半後、ヴェルディは心から敬愛してやまない詩人マンゾーニの死の知らせを受け、悲しみに打ちひしがれます。そして「リベラ・メ」のほこりを払い、今度は独力で《レクイエム》全編を完成、マンゾーニの一周忌を迎えた日に自らの指揮により初演を行ったのでした。

聴く者の魂を揺さぶる“動”のレクイエム

「レクイエム」は、死者の安らかな眠りを祈り、カトリック教会において追悼ミサなどで演奏される音楽です。その性質上、心を鎮めるような穏やかな響きをもった作品が多い中、ヴェルディの《レクイエム》は、魂を揺さぶるような情熱的でダイナミックな一大ドラマ。“三大レクイエム”としてヴェルディの作品と並び評されるモーツァルトやフォーレの作品が“静”のレクイエムならば、ヴェルディの作品は“動”のレクイエムと言えるでしょう。この音楽スペクタクルは初演当初、「あまりにも劇的で宗教音楽らしからぬ」と批判する声もあったというほど。しかしそれは、ヴェルディの偉人達への深い祈りが彼ならではのドラマティックな響きで描き出され、宗教作品とオペラという異なった特徴をもつ2つの音楽が見事に融合した瞬間でもあったのでした。

小林研一郎が音楽監督として初めて挑む大作

これまでに、E.インバル(1982年)、ルカーチ.E(1991年)、G.ジェルメッティ(2000年)といった巨匠たちと東京定期演奏会でヴェルディの《レクイエム》を演奏してきた日本フィル。

コバケンさんとの共演では、今回が東京定期初登場です。コバケンさんは、現在桂冠指揮者を務めるハンガリー国立フィルをはじめ、数々のオーケストラとこの大作に取り組んできました。自身の著作の中で、「ヴェルディのレクイエムは、そのドラマ性、荘厳さ、繊細さ、すべてに独特な世界の構築があり、振りがいのある曲である」と語っており、人生を掛けて追求する作品の一つです。音楽監督として日本フィルと初めて挑む祈りの歌。パワフルな指揮と、日本フィルの渾身の演奏にご期待ください。

今最も輝ける内外のソリスト、合唱団を迎えて

ヴェルディの祈りをより深く、そしてよりドラマティックに表現するのは4人の独唱陣。ソプラノのヒブラ・ゲルズマーワさんは、1994年第10回チャイコフスキー国際コンクールで声楽部門初のグランプリを受賞した逸材。1995年よりスタニスラフスキー&ネミロヴィチ=ダンチェンコ音楽劇場と契約し、プリマとして活躍しています。アルトのズラータ・プリチョーフさんは、1996年サントペテルブルク青少年国際声楽コンクール第1位を皮切りに数々の国際コンクールで上位入賞を果たし、マリンスキー歌劇場を中心に世界各地で活躍しています。テノールとバスで独唱を務めるのは、我が国オペラ界になくはない2人の日本人歌手。佐野成宏さん(テノール)は、武蔵野合唱団在団時にコバケンさんにその類まれな才能を見い出され音楽の道を目指し、東京藝術大学在学中にコバケンさん指揮日本フィルとモーツァルトの《レクイエム》を共演しソロ・デビューを果たしました。その後の活躍は目覚ましく、1992年関西日伊コンクール第1位・ミラノ大賞受賞をはじめ、各国の国際コンクールにおいて上位入賞の快挙を遂げ、今や日本が世界に誇るテノール歌手の一人です。長谷川顯さん(バス)は、オペラとコンサートの両分野において長年活躍。宗教音楽のソリストとして特に高い評価を得ており、その豊富な美声で聴衆を魅了しています。

合唱には昨年『第九』公演で圧倒的な名演を聴かせてくれた東京藝術大学声楽科学生の有志が再び登場、コバケンさんが40年近くにわたり指導を続けている武蔵野合唱団とともに、時には静謐に時にはダイナミックにヴェルディの魂を響かせます。

8月27日(土) 6:00PM 横浜みなとみらいホール
〔特別演奏会〕

8月28日(日) 2:00PM 東京芸術劇場
〔第153回サンデーコンサート〕

指揮：小林研一郎〔日本フィル音楽監督〕

ヴァイオリン：小林美恵

サラサーテ /

カルメン幻想曲

ツィゴイネルワイゼン

スメタナ / 連作交響詩《わが祖国》より

「高い城」「ヴルタヴァ(モルダウ)」

「ボヘミアの森と草原にて」「ブランーク」

第153回サンデーコンサートの開演前に、日本フィル・オリジナル企画「オーケストラたんけん隊」を開催します。ホールやオーケストラ、楽器や指揮者の秘密を探検しませんか。対象は当公演のチケットをお持ちの6歳以上の子どもと保護者。隊長は音楽評論家の奥田佳道さんです。お申込みはサービスセンターへ。〔予約制・無料、定員あり〕



コバケンさんから、最新情報入手！サラサーテの《カルメン幻想曲》では、原曲であるビゼーのオペラ《カルメン》と比較しながら作品の魅力を解き明かすよ！

〔コバケン・ガラ Vol.3〕 ラテンの熱き血、スラヴへの深き愛

コバケン・ドリーム第3弾！コバケンさんが音楽監督就任にあたり、「お客様にもっと近づきたい」との思いを込めてスタートしたこのシリーズ。第1回(2004年8月)ではベートーヴェンの神髄に迫る遥かなるシンフォニーの旅へ、第2回(2005年3月)では自らの語りにより楽しく賑やかなオーケストラ・ワールドへと私たちをいざなってくれました。

第3回となる今回は「ラテンの熱き血、スラヴへの深き愛」と題し、マエストロ・コバケンのタクトが、情熱の国スペインの湧き上がるリズム、世界遺産の国チェコの深遠な自然と文化を描き出します。

ソリストに迎える小林美恵さん(ヴァイオリン)は、1990年、権威あるロン=ティボー国際コンクールで日本人として初めての優勝を果たした実力派。自身も優れたヴァイオリニストであったサラサーテが残した2つの名曲《カルメン幻想曲》と《ツィゴイネルワイゼン》を披露してくれます。どちらも名人芸の技巧を必要とする難曲だけに、その卓越したテクニックを余すところなく魅せてくれることでしょう。

「クラシック音楽を、オーケストラをもっと身近に感じてほしい」という願いから、毎回あっと言わせる展開で私たちを楽しませてくれるコバケンさん。今回もどうぞお楽しみに！



小林美恵

追加公演決定！ 夏休みコンサート2005(31周年)“まほうの国のオーケストラ”

指揮：高関 健(7/17~24) 下野竜也(7/26~31)

おはなしと歌：江原陽子

バレエ：スターダンサーズ・バレエ団(演出・振付=鈴木稔)

7/17(日) 午後2時 府中の森芸術劇場(東府中)
7/18(月・祝) 午後2時 ソニックシティホール(大宮)
7/22(金) 午後2時 千葉県文化会館
7/23(土) 午前11時&午後2時 横浜みなとみらいホール
7/24(日) 午前11時&午後2時 サントリーホール
7/26(火) 午後2時 鎌倉芸術館(大船)
7/27(水) 午後2時 さいたま市文化センター(南浦和)
7/29(金) 午後2時 習志野文化ホール(津田沼)
7/30(土) 午後2時 東京芸術劇場(池袋)
7/31(日) 午前11時&午後2時 横浜みなとみらいホール

ご好評につき、追加公演〔7/23(土)午前11時開演の部〕の開催が決定致しました。

〔第1部〕
舞踏会の美女(アンダーソン)
剣の舞(ハチャトゥリアン)
楽器の紹介
歌劇《ウィリアム・テル》序曲(ロッシニ)
〔第2部〕
バレエ《シンデレラ》(プロコフィエフ)
日本フィル夏休みコンサート版
〔第3部〕
オーケストラの演奏にのってみんなであうたおう
さんぽ/浜辺の歌/
だれにだってお誕生日/翼をください



毎年首都圏に、子どもと音楽とのたくさんの出会いを運んでいる日本フィルの夏休みコンサート。31周年を迎える今年のテーマは“まほうの国のオーケストラ”！夢、魔法、そしてファンタジーをキーワードに、作曲家たちが音楽に託した夢とおとぎの世界に皆様をご案内します。

かえるくんが教えてくれる、「夏休みコンサートのここが魅力！」



その1：本格的なコンサートが4歳から楽しめる！

「子どもが生まれ、当分コンサートはあきらめようと思っていましたが、家族みんなで楽しむことができました」、「子どものための本格的な音楽会に感動しました」という嬉しい声をたくさん頂いています。

その2：オーケストラとバレエの夢の共演！

今年のメイン・プログラムは、ファンタジー物語の王道(シンデレラ)！日本を代表するバレエ団、スターダンサーズ・バレエ団との共演で、華麗なる舞台を繰り広げます。かの有名なクライマックス、「12時の鐘」が鳴るシーンの音楽と舞台の盛り上がりどうぞご期待ください！このロマンティックで贅沢なステージが、手頃な価格で楽しめるのも日本フィル夏休みコンサートの大きな魅力の一つ。大人のリピーターの方が多いうなづけますね。

その3：コンサートをもっと楽しむための仕掛けがいっぱい！

終演後に、出演者や楽団員との懇談会を開催(1日2公演の日は午前の部を除く)。毎回、「発表会で緊張しない方法をおしえて」、「指揮者の人はずっと立って疲れないの？」と思いがけない質問がたくさん飛び出します。

また各公演の開演前には、コンサートをより楽しむための「イベント」を実施(申込制・無料、抽選)。今年は、楽器を間近で見たり音を聴いたり、オーケストラのメンバーと一緒に音楽作りに挑戦したり、普段はちょっと遠い存在のように感じられるバレエ・ダンサーとお話したりと、楽しい企画が盛りだくさんです！

その4：身近なホールで楽しめる！

この夏も1都3県の9会場という広い地域で開催！ぜひご家族揃って、音響のよいお近くのホールでお楽しみ下さい。

